

## W19b 国際宇宙ステーション搭載全天 X 線監視装置 (MAXI) の開発

上野史郎、松岡勝、鳥居研一、杉崎睦、富田洋、白崎裕治、小松茂則、Weimin Yuan(NASDA)、河合誠之、吉田篤正、三原建弘、根来均、桜井郁也(理研)、常深博、宮田恵美(阪大理)、山内誠(宮崎大工)、鎌江稔員(大阪市立大学)、田中勲(明星電気/総研大)

国際宇宙ステーション搭載全天 X 線監視装置 (MAXI:Monitor of All-sky X-ray Image) の開発状況の報告を行う。

MAXI は国際宇宙ステーションの日本実験モジュール曝露部に搭載される宇宙観測装置で、H-II A 型ロケットによる 2004 年夏の打ち上げを目指している。MAXI の X 線検出装置は、面積約  $6000 \text{ cm}^2$  のガス比例計数管スリットカメラ (GSC) と、約  $200 \text{ cm}^2$  の CCD スリットカメラ (SSC) で構成され、X 線全天モニタとしては世界最大面積、最高感度を誇る。検出限界は、1 日 (15 スキャン) の観測で、2–10 keV (GSC) で 3 mCrab、0.5–2keV (SSC) で 6 mCrab と、これまでの装置に比べ一桁良く、系外天体を含む 1000 個以上の X 線源の時間変動を、日スケールから年スケールにわたって監視する計画である。 ( $1\text{mCrab} \sim 2 \times 10^{-11} \text{ erg s}^{-1} \text{ cm}^{-2}$  in the 2–10 keV band).

本ポスター講演では、Preliminary Design Review を控えた全体設計と、試作検出器の性能評価試験の進行状況について報告する。